

第7回(平成30年度)東北大学病院緊急被ばく医療訓練が行われました(2019/1/24)

テーマ：放射線災害、原子力災害拠点病院、緊急被ばく医療
場所：東北大学病院（宮城県仙台市青葉区）

1月24日（木）、東北大学病院にて平成30年度緊急被ばく医療訓練が行われました。今年度の東北大学病院緊急被ばく医療訓練は、宮城県などが主催する平成30年度宮城県原子力防災訓練「原子力災害医療活動訓練（汚染傷病者搬送訓練）」の一環として行われました。当研究所から災害医学研究部門 災害放射線医学分野の千田浩一教授がスーパーバイザを担当しました。また同部門 災害医療国際協力学分野の江川新一教授も訓練に参加しました。

今年度は、青森県の原子力災害医療派遣チームを受け入れて原子力災害医療体制を強化する取組などが新たに訓練項目に加えられました。東北大学病院では弘前大学の原子力災害医療派遣チームを受け入れて訓練や手順確認を行いました。

今回の被災想定は、「平成31年1月24日（木）午前7時00分頃、大きな地震が発生し、女川原子力発電所の原子炉が自動停止する。地震後の現場パトロールを実施中の発電所員4名が、余震の発生により現場資機材の崩落を受け汚染と被ばくを伴い被災する。被災した4名のうち1名は内部被ばくの恐れがある。」ということで訓練が実施されました。

東北大学病院における主な訓練の流れは次の通りです。1. 災害対策本部立上げ。2. 石巻日赤病院から転院調整(受入要請)があり受諾【右脚すね部に裂傷・出血、自力歩行不可、開放性骨折、内部被ばく無し、外部被ばく0.2 mSv/h、体表面汚染あり(100Bq/cm²)】。3. 受入れ準備開始、県に傷病者受入を連絡。4. 石巻日赤病院から東北大学病院に向けて救急車出発、そして到着後傷病者を高度救命救急センター処置室(重症 ER)に移動。5. 弘前大学の原子力災害医療派遣チームと連携して、汚染検査、除染、医療処置など開始。6. 医療処置終了、医療チーム・処置室の汚染検査。7. 汚染検査終了、県に処置・汚染検査終了連絡。8. 反省、振り返り(課題等の確認)。

多職種連携による実際的な緊急被ばく医療訓練が例年通り行われ、さらに本年は弘前大学の原子力災害医療派遣チームと協同で訓練を実施しました。派遣チームとの合同訓練は、予想よりも比較的スムーズに行われ、より実践的な対応力を身につけることができたと思われま



災害対策本部立上げ



傷病者を高度救命救急センターへ搬送



弘前大学の派遣チームと合同での被ばく医療訓練



反省、振り返り